

### 『努力点目標』

# なかまと学ぶ上名の子

## ～児童の思考にそったICTの活用を通して～

本年度も、各教科・領域の中で、名古屋市が目指す授業「なかまなビジョン」に示された学習過程である「めあてをつかむ」「自分の考えをもつ」「対話する」「まとめる・振り返る」を大切にしながら、なかまと学ぶ児童を育てるために、授業研究を進めました。

今年度はタブレットを活用した学習の取り組みも3年目に入り、「まずは使ってみる」という段階から、「ICTの活用を精選して効果的に使う」という段階に入ったと考え、児童の主体的な学びにつなげるために、児童の思考に寄り添った活用をテーマに実践を進めました。

子どもたちの成長段階に応じた指導法や取り組みを学校全体で考えるために、異学年で4つのチームを編制しています。活発な意見交流を行いながら実践を進め、授業研究を進めました。

今年度の各チームの取り組みと来年度に向けた課題について、「最終報告」としてまとめました。

## 【Aチームの取り組みの様子】



《(6-2 国語)の授業の様子》

国語科「川とノリオ」の学習で、なぜ、「川とノリオ」という題名になったのかを考える学習に取り組みました。タブレットの共有ノート機能を使うことで、画面上ですぐに友達の考えが反映され、自分の考えを整理し、深めることができました。また、共有ノートで記述したことを見ながら、話し合いを行うことができました。タブレット上の友達が記述したカードに、線を引いたり、丸をつけたりしながら聞くことで、友達の考えに対して共感したり、新しい考えとして取り入れたりすることができました。



《(4-2 国語)の授業の様子》

国語科「写真をもとに話そう」の学習で、写真から気付いたことを基に想像したことをカードにしてまとめる活動を行いました。「気付きを基に想像する」ということが理解しやすいように、テレビに提示した写真を基にクラス全体で想像し、なぜそう思ったのかを児童に問い掛けることで「表情」や「ポーズ」などの根拠を明確にしました。その後、各自選んだ写真についてロイロノートのくらげチャートを用いて「気付きカード」と「想像カード」をつなげてまとめることで、想像の根拠を分かりやすくまとめ、次時の発表メモとして活用することができました。



《(1-1 生活)の授業の様子》

生活科「あきと あそぼう」の学習では、どんぐりやまつぼっくりを使って、「けん玉」や「こま」などを作り、友達に紹介する活動を行いました。完成するまでは、同じおもちゃを作る児童で編制したグループで学習を進め、製作経過や遊び方が分かりやすいように、各自、写真や動画を撮って保存しておきました。紹介する場面では、ロイロノートを活用し、紙芝居のようにつなげた写真をスライドしながら話すことで、順序よく詳しく伝えることができました。自分と違う種類のおもちゃの画像を見たり、実際に遊んだりしながら、友達の工夫にも気付くことができました。



《(2-2 国語)の授業の様子》

国語科「様子をよく見て、くわしく書こう」の学習で、見つけた物の様子をよく見て、詳しく言葉で表す学習に取り組みました。見つけた物について、気付いたことをロイロノートにまとめました。色や形などの観点ごとにヒントカードを用意し、どんなことを書けばよいか子どもたちが分かるようにしました。この活動を通して、色や形などの観点に注目することで、見つけた物の様子を詳しく表すことができました。

## 【Bチームの取り組みの様子】



《(5-1 社会)の授業の様子》

社会科「あたたかい土地の暮らし」の学習で、沖縄県の農業について調べる学習に取り組みました。沖縄県の気候の特徴をどのように生かして農業を営んでいるのかを教科書・資料集・タブレットを使って調べました。まずは教科書で調べ、さらに詳しい内容については資料集やタブレットを使うというように、子どもたちが自分のペースで段階的に学習を進められるようにしました。タブレットの活用においても、まずは教師が用意したwebページの資料を使い、その後検索ツールを使った調べ学習といった段階を設けました。この活動で、様々な資料から必要な情報を選んでまとめたり、沖縄の気候にあった作物が農家の工夫とともに作られていることを理解したりすることができました。



《(2-3 音楽)の授業の様子》

音楽科「音のかさなりやリズムをえらんで合わせよう」の学習で、リズムの組み合わせや音の重なりを生かした音楽づくりを行いました。4つの音を重ねて演奏したカードや、タンバリンでリズムを演奏したカードをタブレットに送り、それをいながら音楽づくりに取り組みました。タブレットに音の入ったカードがあることで、グループでどんな組み合わせが良いか、どの音の重なりが良いかなど楽しみながら音楽づくりを行うことができました。授業の後も、放課に友達とリズム打ちを楽しむ姿が見られ、音楽により親しむことができました。



《(3-2 理科)の授業の様子》

理科「じしゃくのふしぎ」の学習で、実験を通して、どのようなものが磁石に引き付けられるのかを学習しました。実験に用いた、くぎやペットボトルなどの写真付きのカードをタブレットに送り、実験結果を磁石に引き付けるものと引き付けられないものにまとめました。カードは、鉄からできているものは黄色、プラスチックからできているものは青色などと、素材ごとに色分けをしたことで、鉄からできているものが磁石に引き付けられるということにいち早く気づき、理解することができました。

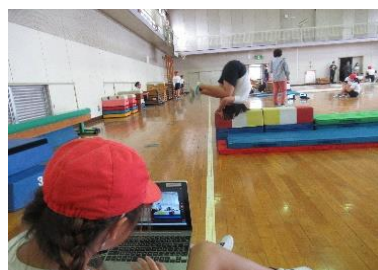
## 【Cチームの取り組みの様子】



《(4-1 社会)の授業の様子》

社会科「ごみのしよりと利用」の学習で、学習問題に対する自分の考えをまとめるため、学習計画を立てる活動を行いました。見通しをもって学習を進めることができるように、計画表はタブレット端末を使って1枚のシートにまとめました。「調べたい事柄」を考える際、前時の子どもの気づきや疑問をテキストカードにして子ども達に送ったり、作成した計画表を共有したりすることで、みんなが出した考えを基に、自分の考えをもったり、参考にして考えを練り直したりすることができました。

ごみの処理やごみのゆくえについて興味をもち、自分事として捉えて、立てた計画を基に、問題解決に向けて、早速調べ始めようとする様子が見られました。



《(6-1 体育)の授業の様子》

体育科「とび箱運動」の学習で、自分の課題に気づき、解決の仕方を考えて運動に取り組む活動をしました。自分の課題に気付くために、タブレットで自分の動きを撮影し、見本の動画と見比べることで、どこが課題かを考えさせました。また、動画を見る際の視点を「踏切・着手・回転・着地」と細分化し、見本と同じようにできているポイントは桃色、できていないポイントは黄色に色分けすることで、自分の課題を具体的に把握することができました。

これにより、課題を解決するために必要な練習を選び、進んで運動に取り組むことができました。



《(2-1 国語)の授業の様子》

国語科「ないた赤おに」で、赤おにの戸惑う気持ちを読み取る学習に取り組みました。赤おにの気持ちがわかる根拠になる言葉や文を一人一人が教科書から見付け、ワークシートに記入し、それをタブレットのロイロノートで撮り、全員で共有しました。全員のノートを共有し、自分の見付けた言葉や文と友だちの見付けたものを比べることで、キーワードになる言葉や文に気付くことができました。また、戸惑う二つの気持ちのどちらの根拠になるかを選択する活動では、友達の考えを知りたい思いが高まったため、ノートを共有して自分の考えと友達の考えを比べました。また、そう思う根拠を考えることで赤おにの気持ちを読み取る



《(たんぽぽ すみれ 国語)  
の授業の様子》

国語科「おはなしかいをたのしもう」の学習では、絵本「はらぺこあおむし」の音読をしました。事前に「声の大きさ」「話を聞く姿勢」など、音読の際に気を付けるポイントを確認してから、音読しました。活動の様子をタブレットで撮影した動画を視聴し、教師と一緒に振り返りシートを活用しながら、自分の音読や友達の音読の良かった点や修正したい点について振り返ることで、次の音読では、さらに良い発表にしていこうといった意欲につなげることができました。物語で登場する食べ物や主人公のイラストや音声を取り込んだ絵本のスライドを提示しながら音読活動に取り組んだことで、絵本の内容を認識でき、言葉の響きや内容の面白さを感じながら、楽しく音読することができました。

## 【Dチームの取り組みの様子】



《(5-2 国語)の授業の様子》

国語科「町じまんをすいせんしよう」の学習で、「町じまん」として推薦したいものについて調べる学習に取り組みました。最初に教師が用意したwebページの資料を提示し、その後自分で情報を検索することができるように段階的に活動を行うことで、様々な資料から必要な情報を選ぶことができました。また、調べた情報をシンキングツール活用して、整理をしました。「よいところ」「課題」「町とのつながり」などの観点で調べ学習を進めることができるよう、カードの色を変え、分類させることで、視覚的にも分かりやすく、情報を整理しながらまとめることができました。



《(1-2 体育)の授業の様子》

体育の「なわとび」で、発表会の技を考える学習に取り組みました。自分が決めたテーマに沿って、できる技をどのように発表するのかをタブレットを使って考えました。あらかじめ教師が、なわとびの技を撮影し、各技を動画カードにしました。子どもが、その動画カードをタブレットで、自分が発表したい技の順番に並べ、発表カードをつくることで、発表会で発表する技の見通しをもてるようにしました。動画カードを再生して技の確認を行ったり、テーマに沿うように動画カードを並べ替えたりしてタブレットを操作することで、発表カードをつくることができました。自分たちが考えた発表カードを基に繰り返し練習する様子が見られました。



《(4-1 道徳)の授業の様子》

道徳「自分をかがやかせて」の学習で、自分の個性についてシンキングツールにまとめ、自分や友達の良さを認め合う活動に取り組みました。まずは、バタフライチャート上に自分の長所や短所の書かれたカードを色分けして貼り、視覚的に分かりやすくしました。また、参考にさせたい児童の回答をすぐテレビに投影することで、考えを深めさせることができました。次に、友達とバタフライチャートを見せ合い、友達から見た長所を教えてもらったり、短所を長所に変えてもらったりしました。最後に、回答共有機能を使って全員の回答を見られるようにし、「みんなちがってみんないい」ことを再確認させることができました。



《(3-1 特活)の授業の様子》

学活「主食を知ろう」の学習では、パンへの関心を高めることをめあてに、米粉パンのよさについて紹介し合う活動を行いました。最初にこれまでの給食での体験から、自分が感じている米粉パンのよさについて、ロイロノートを活用してまとめました。そのまとめを、タブレットPCに提示しながら、多くの児童と1対1でプレゼンテーションをし合っていく「営業活動」と呼ぶ活動を行うことで、「そういうよさがあるんだ!」と、新たなよさに気付いたり、「自分もそう思う」と共感したりすることができました。この活動を通して、当たり前身の回りあることで、これまで気にとめることがなかった食べ物への関心を高めることができました。

## 【今年度のまとめと来年度に向けて】

今年度も「なかまなビジョン」の学習過程を大切にしながら、昨年度から導入されたタブレットなどのICT機器をどのように活用すると効果的かを考え、授業研究を行いました。基本的な方針は変わりませんでした。昨年度の課題を生かして、今年度は児童の思考に寄り添い、主体的な学びにつながるようなICTの効果的な活用方法を考え、実践を進めました。

実践を行う中で、動画や写真などは視覚的に分かりやすいという点や、皆の考えをすぐに共有し、自分の考えと比べることができるという点は、とても便利で学びに生かしやすいたことが分かりました。また、話し合いや調べ学習では児童が欲しいと思うであろう資料を教師が準備しておくことで、その時間のめあての達成に効果的であることが分かりました。

ICT機器、特に児童個人が使っているタブレットを使っていろいろなことができるようになってきた反面、その使い方が複雑になってきているところもあります。あくまでもタブレットは学ぶためのツールであって、使うことが目的にならないようにする必要があったと感じました。そのためには、やはりめあてを意識した授業作りをして、その中で必要であると考えたとき（児童が必要と感じるとき）にICT機器（タブレット）を使っていくことが大切だと思います。それがつまり、今年度のテーマであった児童の思考に寄り添うということです。今年度、ある程度のところまでもつてくることはできましたが、この点が満足できるところまで達成できたかというところではないように感じます。

来年度以降、児童が自分の興味・関心のあることを追究したり、自分のペースで学んだりする「自律した学び」や、分からないことは必要に応じて友達や大人の力を借りたり、人に自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」が名古屋市全体の学びの基本的な方針となります。これらを実現させるためには、児童の思考に寄り添うことが大切であると考えます。今年度、努力点で授業研究をしてきたことを来年度に生かし、児童がよりよい学びをできるようにしていきたいと思ひます。

